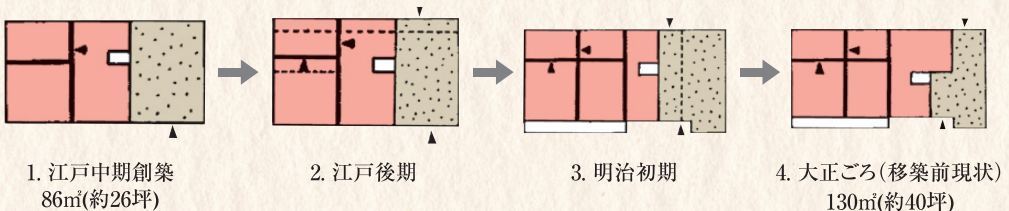


旧佐藤家住宅の歴史

江戸時代中期 (18世紀中頃)	国見町大字小坂字木八丁40(現:国見I.C付近)の場所に建設される
江戸時代後期	増築(背面を半間拡張し面積を広く・出入口を増やす)
明治初期	増築(土間を拡張し、「なかのま」を新たに設ける)、敷地内に土蔵・「なや」が設けられる(分家を増やし「本家」と呼ばれるように)
大正頃	改築(土間に板床を張り出す)
昭和46年	10~11月 東北自動車道建設に伴う、県教育委員会(鈴木啓氏)・県文化財専門委員(草野和夫氏)の調査により、貴重な建造物であることが報告される
昭和47年	3月18日 所有者である佐藤勝一氏より国見町に寄付 4月7日 県重要文化財(建造物)に指定 8月~11月 解体し、国見町大字藤田字観月台15(当時、町福祉センター西側)に移転 創建当時の建築様式に復原工事
平成5年	観月台文化センター建設に伴い、敷地内にて曳家工法により移動
平成15年	8月~12月 屋根葺き替え・壁の修繕工事
平成23年	3月 東日本大震災により被災(屋根・壁)
平成24年	8月~10月 震災復旧事業による修繕工事

旧佐藤家住宅の平面図変遷図



 ...板敷  ...土間

草野和夫ほか『旧佐藤家住宅調査・移築復原工事報告書』
1973年 国見町教育委員会発行 より